「特別支援教育講演会」開催のお知らせ

市では、第３次特別支援教育実施計画に基づき、１「早期連携・早期支援の充実」、２「学校における指導体制・指導内容等の充実」、３「学校における特別支援教育の取組への支援」、４「関係機関との連携」、５「特別支援教育の理解啓発」、の５つの基本施策の下で事業を展開しています。

このうち、５「特別支援教育の理解啓発」では、発達障害教育を含む特別支援教育の推進と理解啓発のため、保護者、関係機関、市民等を対象に『特別支援教育をテーマとする講演会』を開催し、障害に対する正しい知識の普及や理解の促進に取組んでおり、今年度は下記のとおり開催します。

テーマ　「発達障害と特別支援教育～理解とサポートの重要性～」
※障害のある子どもの将来をイメージするための講演です。

日時　11月20日(月)午後３時～４時45分

会場　女性総合センターホール(アイムホール)

講師　綿貫 愛子氏(NPO法人東京都自閉症協会　役員)

担当　教育支援課就学相談係☎(527)6171

立川市第3次特別支援教育実施計画体系図

立川市の歴史と文化財 52

決戦！立川原の戦い―立川で起きた戦国合戦―

「銅鉦鼓」(個人蔵)表面

日本史の中で、中世と呼ばれる時代は「戦乱の時代」とされています。特に武蔵野の広大な台地は有数の合戦場でした。鎌倉から戦国時代にかけて、多くの荒武者たちがこの草深き野を駆け巡り、鬨をあげ、兵刃を交えてきたのです。そして、ここ立川の地でも、室町から戦国時代にかけて、立川原合戦とよばれる戦いが起こりました。ここでは関東の室町・戦国史と絡めて立川原合戦を紹介します。

建武３(１３３６)年に京都で室町幕府が成立すると、幕府は関東の支配を鎌倉府に一任しました。当初、室町幕府と鎌倉府は協調関係にありましたが、徐々に対立にむかっていきます。この対立が表面化するのは六代将軍足利義教の時でした。義教は幕府に反抗的な四代鎌倉公方足利持氏の排除に乗り出します。永享10(１４３８)年に持氏が関東管領山内上杉憲実の追討のために挙兵すると、義教は憲実に命じて持氏を討伐させました(永享の乱)。

持氏討伐後、ほどなくして彼の遺児万寿王丸(のちの成氏)が後継者に擁立されます。これによって鎌倉公方は復権しますが、享徳３(１４５４)年に成氏が関東管領山内上杉憲忠を殺害すると、鎌倉公方(のちに古河公方)と関東管領・幕府との間で抗争が再燃します。この抗争は約30年にわたって展開し、関東全体に甚大な戦禍をもたらしました(享徳の乱)。このうち、康正元(１４５５)年正月21日には古河公方と関東管領方が立川原で激突しています。

長きにわたる戦乱の末、文明14(１４８２)年に幕府と古河公方との間で和睦が成立しました(都鄙和睦)。ところが、この和睦をめぐり、交渉の仲介役を務めた関東管領上杉氏内部ですれ違いが生じ、今度は山内・扇谷両上杉氏の間で深刻な対立が起きます。そして、文明18(１４８６)年に扇谷上杉定正が家宰の太田道灌を殺害し、道灌の嫡子資康が山内上杉氏を頼ったことで対立は決定的となりました。両上杉氏による抗争は関東各地で展開し、容易に決着が付きませんでした(長享の乱)。戦況が大きく動くのは永正に入ってからです。そのきっかけが永正元(１５０４)年の立川原合戦でした。

永正元年８月、関東管領山内上杉顕定が扇谷上杉氏の城を攻めるなか、扇谷上杉朝良(定正の養子)は伊勢宗瑞(北条早雲)と今川氏親に援軍を要請します。そして、９月になり、古河公方足利政氏(成氏の子息)を擁した山内上杉方が立川原に陣を構えると、宗瑞・氏親と連携する扇谷上杉方もこれに対陣します。両軍が立川原に出揃い、合戦の火蓋が切られるのは９月27日のことです。この合戦は両上杉氏の争いの中でも屈指の激戦でした。結果として、扇谷上杉方がこの合戦に勝利し、大敗を喫した山内上杉方は二千余人の死者を出したといわれます。ところが、顕定はいったん撤退すると、越後上杉房能(顕定の実弟)の援軍を受けて態勢を立て直し、翌年３月には扇谷上杉氏に総攻撃を仕掛けてこれを屈服させました。こうして約20年にわたる両上杉氏の抗争は山内上杉氏の勝利で終結しました。

さて、この永正元年立川原合戦を今に伝える資料として「銅鉦鼓」(個人蔵)があります。これは山内上杉方として立川原合戦に参加した毛呂土佐入道幻世(俗名顕季)が合戦の戦死者を供養するために鋳造させたものです。「銅鉦鼓」は現在、東京都指定有形文化財であり、東京都文化財ウィークの期間中、10月24日(火)から11月26日(日)まで、歴史民俗資料館にて特別公開します。ぜひ会場までお越しください。

問 歴史民俗資料館・生涯学習推進センター文化財係☎(525)0860